

使命目標	指標	参考資料
<b>I 美術を通じた交流を促進する</b> <span style="float:right">【集客・交流推進】</span>		
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。 <span style="float:right">〔広報〕</span>		
達成目標	・年間観覧者数10万人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間観覧者数(月別推移、年度別推移)</li> <li>・年間来館者数(月別推移、年度別推移)</li> <li>・駐車場利用状況(月別推移、年度別推移)</li> <li>・来館回数(年度別推移) *リピート率</li> <li>・居住地域(年度別推移) *市民率</li> <li>・交通手段(年度別推移)</li> </ul>
実施目標	・広報、パブリシティ活動を通じて、広い層に美術館の魅力をアピールする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種メディアへの掲載実績</li> <li>・広報会議の概要(広報戦略)</li> <li>・訴求活動の概要(ポスチラ配布、リリース発送の状況)</li> </ul>
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。 <span style="float:right">〔市民協働〕</span>		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ボランティア協働事業への参加者数のべ1000人(事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業ごとの開催回数、参加者数の一覧</li> <li>→サポボラ研修</li> <li>所蔵品展ギャラリートーク(参加者数、参加ボランティア数)</li> <li>小学校鑑賞会補助(参加ボランティア数のみ)</li> <li>ワークショップ補助(参加ボランティア数のみ)</li> <li>プロジェクトボランティア会議</li> <li>プロジェクトボランティアイベント(参加者数、参加ボランティア数)</li> </ul>
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふだん美術館に関心を持たない層を含めた市民が、美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。</li> <li>・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア関連事業の概要</li> <li>・(ボランティアの感想・反応)</li> </ul>
<b>II 美術に対する理解と親しみを深める</b> <span style="float:right">【社会教育】</span>		
③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。 <span style="float:right">〔展覧会・教育普及〕</span>		
達成目標	・企画展の満足度(補正值)70%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各企画展の満足度</li> <li>・所蔵品展の満足度(年度別推移)</li> <li>・谷内六郎展の満足度(年度別推移)</li> </ul>
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6本(児童生徒造形作品展含む)の企画展を開催する。</li> <li>・大人の知的好奇心を満たし、美術への理解を深めるための教育普及事業を企画・実施する。</li> <li>・所蔵図書資料を充実させる。</li> <li>・多くの人気が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。</li> <li>・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各企画展(児童生徒造形作品展を除く)の概要(ねらい、担当者の感想・反省点)</li> <li>・所蔵品展の概要(同)</li> <li>・谷内六郎展の概要(同)</li> <li>・講演会・アーティストトーク等の実施状況(同)</li> <li>・大人向けワークショップ等の実施状況(同)</li> <li>・図書室の概要(図書新規購入額・点数、寄贈図書の点数)</li> <li>・図書室の利用状況(利用者の月別推移、担当者の感想・反省点)</li> <li>・学芸員による論文、発表等</li> </ul>
④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。 <span style="float:right">〔若年層への教育普及〕</span>		
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数15,000人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数の券種別内訳(月別推移、年度別推移)</li> <li>・子どもを対象とした教育普及事業の参加者数(のべ人数の年度別推移)</li> </ul>

	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。</li> <li>・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。</li> <li>・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。</li> <li>・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒造形作品展の概要(担当者の感想・反省点)(学校側の反応)</li> <li>・小学校美術館鑑賞会の概要(実施内容、学校数、児童数、対応職員・ボランティア数、担当者の感想・反省点)(学校側の反応)</li> <li>・中学生のための美術鑑賞教室の概要(実施内容、担当者の感想・反省点)(生徒の感想)</li> <li>・子ども向けワークショップ等の実施状況</li> <li>・研修等の受入れ状況</li> </ul>
⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。 [収集管理]		
	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術品選定評価委員会を1回開催する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新収蔵作品リスト</li> </ul>
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。</li> <li>・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。</li> <li>・計画的に所蔵作品の修復を行う。</li> <li>・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品収集の状況</li> <li>・保管環境の状況</li> <li>・所蔵作品の修復状況</li> <li>・所蔵作品の貸出状況(件数、点数)</li> </ul>
Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する [運営・管理]		
⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。 [メンテナンス・来館者サービス]		
	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・館内アメニティ満足度80%</li> <li>・スタッフ対応の満足度80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメニティ関連各項目の満足度(年度別推移) →全般・館内印象・館内環境・休憩所・トイレ・清掃</li> <li>・スタッフ対応の満足度(年度別推移)</li> </ul>
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。</li> <li>・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。</li> <li>・受託事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンテナンスの概要(屋外含む美観、安全性の確保)</li> <li>・受付・展示監視員研修の状況</li> <li>・運営事業者連絡会議の概要(議題等)</li> <li>・繁忙期の対策(ケータリング誘致など)のまとめ</li> <li>・レストランアンケート結果</li> <li>・レストランコラボメニューの概要</li> </ul>
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。 [バリアフリー]		
	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関連事業への参加者数のべ200人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業ごとの開催回数、参加人数 →福祉関連講演会 福祉関連ワークショップ 福祉関連パフォーマンス 障害児を対象としたワークショップ 託児サービス</li> </ul>
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう(環境づくり)のための各種事業を行う。</li> <li>・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関連講演会の概要</li> <li>・福祉関連ワークショップの概要</li> <li>・福祉関連パフォーマンスの概要</li> <li>・障害児を対象としたワークショップの概要</li> <li>・託児サービスの概要</li> <li>・養護学校等の受け入れ状況</li> <li>・鑑賞補助(対話鑑賞)の実施</li> </ul>
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する [経営的視点]		
	<p>達成目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歳入および歳出の内訳(年度別推移)</li> </ul>
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員すべてが費用対効果をつねに意識し、効率的な支出を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経費節減の事例・検討課題報告 →開館日・開館時間</li> </ul>